（１）下田小学校

学　　校　　長　上田　壮
校内研究代表者　石川　朗

1. 研究主題

「生きて働く読解力の育成」
～見方・考え方を働かせた国語科の授業づくりを目指して～

２．主題設定の理由

昨年度は、算数科を中心に各教科等の指導に当り、授業の導入では、必ず既習事項を想起させ、本時とのズレに気づかせるとともに、解決方法や見当をつけることなど、見通しを持って課題解決ができるような児童主体の授業づくり目指して取り組みを進めてきた。また、生活に関連付いた問題場面を設定し、単元の終わりには児童が付けた力を振り返ることで、他教科や生活の中で使える力として意識することができるよう、授業者自身が意識的に取り組んできた。その結果、令和６年度 CRT ではほとんどの学年で国語・算数とも全国平均以上の正答率であった。また、評定１の出現率は全国と比べ、ほとんどの学年で低いものの、全国以上の学年もあり、課題に基づいた学力向上の取組を継続して行っていく必要がある。また、令和６年度高知県学力定着状況調査においても、県全体比４年国語+0.3pt、算数+5pt、５年国語+10.1pt、算数+8.5pt、理科+9.4pt と達成することができた。しかし、４年生の領域別正答率では「言葉の特徴や使い方に関する事項」において-0.7pt、「読むこと」において-1.3pt と県平均を下回っており、言語能力、読解力に課題が見られる。加えて、国語科に限らず算数科においても、「何を問われているかおさえる力」や「複数の情報を読み取り、活用する力」に依然として弱さが見られる。このことから、令和７年度は国語科の研究を進めていく。その中で、昨年度課題の見られた「読むこと」について、他教科・領域等の学びや実社会、実生活に生きて働く読解力の育成を目指していくこととする。

３．研究の進め方と方法

（１）研究の進め方

①研究組織

・全体会（校内研究）
・研究推進委員会及び企画委員会・・・第１金曜日（校長・教頭・教務主任・研究主任・事務）
・ブロック・・・必要時（低…松田・中村・永橋・野並・河上　　高…石川・高橋・才市）
・部会・・・必要時　学力向上部（　石川・才市・中村・永橋　）
　　生活指導部（　松田・高橋・野並・河上　）

②授業研究

・全体研…国語１本
　　指導案を作成。全体で事前研と事後研を行う。事後研には指導主事招聘。）
・ブロック研…国語２本(略案)
　事前研はブロックで行い。授業研・事後研は全校で行う。

③水曜日午後の活用の仕方（14：50～16：30）

・第１週・・・職員会、生活指導研究・発表朝会等の反省
・第２．３．４週…研究主題に関わる研究
　運営・・・司会者、記録者は席順で順番制とする。
　推進・・・企画委員会が前回までの経過に基づいて研究の方法を提示する。

（２）研究主題具現化の視点

①研究仮説

(1)指導者が単元構成をしっかりと捉え、付けたい力を児童と共有しながら授業を行うことで、児童が単元の学習全体の見通しをもち、何をどのように学ぶのか理解し、何ができるようになるのかといった明確な目的意識をもつことができ、学習意欲の向上や主体的な学びにつながるのではないか。〈見えるようにしよう〉

(2)全文シートを活用して、どの言葉に着目するのかを明確にし、本時で働かせる見方・考え方をめあてとまとめに取り入れていくことで、言葉による見方・考え方を成長させることができるのではないか。〈見えるようにしよう〉

②授業改善への取組

・付けさせたい資質能力、指導事項に合った言語活動の設定
　単元終了時まで学習意欲が維持できるもの、目的意識・相手意識がもてるもの、生活に根差したものが好ましい。※子どもと話し合って決めることも可能。

〈見えるようにしよう〉
・単元ゴール(言語活動)、学習の流れ、付けたい力の作成・掲示(子どもと作る単元構想図)
・全文シート・デジタル教科書の活用
叙述(言葉)に着目させる。
・見方・考え方を明確にした資質能力ベイスのめあてとまとめの研究
・振り返りの視点の統一
③語彙力の向上
・意味調べの推進（読むことの単元の導入時）
・読む活動の工夫と積み重ね（並行読書）

４．今年度の成果と課題

【成果】

高知県学力定着状況調査において、四万十市比 4 年国語+12.7pt、算数+8.4pt と成果が見られた。また、CRT 評定「１」の児童は、全学年で国語 0%、算数 5.3%と目標の 15%未満を達成することができた。国語科に関しては、付けさせたい資質能力にあった言語活動を設定し、学習過程に沿った単元計画を作成、掲示してきた。そうした取組を全校で統一して行ってきたことで、児童は、単元のゴール・付けたい力・学習の流れを意識して学習に取り組むことができ、「話す・聞く力」「書く力」「読む力」の底上げにつながったのではないかと考える。算数科に関しては、昨年度の高知県学力定着状況調査及び CRT から、その学年の弱さを洗い出し、課題に合わせた学習指導を行った。その結果、評定「２」「３」94.7%をと、高水準を維持することができた。

【課題】

高知県学力定着状況調査において、四万十市比 5 年国語－0.9pt、算数－17.2pt、理科－11.2pt と課題が見られた。原因としては、授業づくりの方向性を徹底できていなかったことが挙げられる。校内研究の中で、授業づくりの方向性を確認したものの、検証する場を設定しておらず、取組進捗状況を十分に把握することができていなかった。また、CRT も合わせてみると、国語科「読むこと」の正答率が低く、特に【C(1)エ精査・解釈】に課題が見られた。原因としては、読む→精査→解釈というプロセスが踏めていないこと、語彙力が低いことの 2 点が考えられる。

○読む→精査→解釈というプロセスについて
「教科書を読んで、行動の理由を考える」「教科書を読んで、気持ちの変化を考える」いうように、読む→解釈というような、精査を飛ばした授業が多くなってしまっていた。授業の中で、子どもになんとなくで答えさせてしまい、叙述を基に考える力をつけることができていなかったのではないかと考える。

○語彙力について
意味調べや動作化等、言い換え等の取組を行ってきたが、語彙力が十分についてきているとは言えない。言葉の意味を理解できていないことで、文章の内容も理解が乏しく、子どもたちの思考は精査にたどり着くことができていない。

これらの理由から、授業の中で、意味を理解しながら文章を読み、大切な言葉を見つけ、前後の段落や場面と関係づけることが不十分で、【C(1)エ精査・解釈】に課題が残ったと考える。

【方策】

課題を解決していくために、以下の５点を来年度の取組として進めていく。
①学習過程に沿った単元計画の作成・掲示《継続》
②全文シート・デジタル教科書を活用して、着目する言葉を見えるようにする。《継続》
③【C(1)エ精査・解釈】の向上
「読む→解釈」のショートカット授業にならないように、本文を読み、大切な言葉を見つけ（精査）、前後の段落や場面と関係づけながら考える（解釈）という思考の型を授業に落とし込む。
④語彙力の向上
動作化、言葉集め、問い返し、意味調べ、言い換えなどの取組を進め、言葉の意味に着目させる。
⑤検証の場の設定
(1)学力向上の取組シートの改良
県版学力定着状況調査、CRT の結果と、学力向上に向けた取組、その検証方法が一覧で見られるシートを作成し、計画→実践→検証を計画的に行っていく。
(2)教材研究会・授業研究会の計画的な実施
取組の検証の場、さらなる授業力の向上の場として、全学年 1 回は授業研究会を行う。